

「ヒトパピローマウイルスワクチンの積極的勧奨再開を望んで」

ヒトパピローマウイルス(HPV)ワクチンは、2010年から公的補助金による接種が始まり、2013年4月から定期予防接種として開始されました。しかし、予防接種後の健康被害の訴えを受け、6月に「積極的な接種の勧奨は差し控え」となりました。積極的な勧奨の差し控えから6年が経過し、接種率は現在0.3%と低下した状態です。今回、HPVワクチンの安全性・有効性について、現在の状況について説明したいと思います。

有害事象の根拠となった2つの研究があります。1つは2016年3月に厚労省から委託された池田修一氏が、予備的なマウス実験の結果にも関わらず有害事象を証明したかのように報告した研究です。その後、厚労省は池田氏に対して混乱を招いたことに猛省を求めています。もう1つは2016年11月にScientific Reportsに掲載された日本人研究者グループによる「子宮頸がんワクチンと百日咳毒素を同時接種したマウスの視床下部破壊」の研究です。しかし、これは2017年9月に「目的と手段が一致していないこと」を理由に出版社により掲載が撤回されました。以上のように差し控えを支持する研究はなくなりました。

ワクチン接種後の広範な疼痛や感覚・運動・自律神経・認知機能障害などの「多様な症状」に関する2つの調査があります。厚労省研究班による祖父江友孝氏の全国疫学調査と、鈴木貞夫氏の名古屋市の調査(Papillomavirus Res 2018; 5: 96-103)です。両研究により、ワクチン接種後に報告されている症状と同様の「多様な症状」が、ワクチン接種を受けていない少女にも一定数存在することが明らかになりました。そのため、ワクチンを打つ時の痛みや不安などのストレスがきっかけに機能性身体症状(心身の反応)を引き起こした可能性は否定できませんが、ワクチン成分が直接「多様な症状」を起こしたのではないことが明らかになりました。以上のようにワクチンと「多様な症状」との間に直接的な因果関係を示す根拠はなくなりました。WHOからも「ワクチン接種推奨に変更があるような安全上の問題は確認されてなく、根拠のない主張によって接種率が低迷するなど、真の害悪をもたらすことを懸念している」と、積極的接種勧奨を停止しているわが国の政策に対する批判の声明が届いています。

EBウイルスを研究してきた私は定期接種が開始された頃、ワクチンで感染を予防できても、子宮頸部前がん病変(異形成:CIN)・癌化の予防に関しては確信を持ってませんでした。HPVが基底幹細胞に感染すると、一生潜伏感染し癌化を起こすと考えられていたからです。但し、抗体は潜伏感染している細胞には働きませんが、ウイルス量が減り潜伏感染する細胞が減少すれば、子宮頸がんへの進展を減らせる可能性があるかと推測されていました。2018年のコクランレビューと、Lancet (2019; 394; 497-509)のメタ解析では「接種対象の若い女性のHPV感染症とCIN2を大きく減らすだけでなく集団免疫効果が見られる」と、前がん病変を予防できるということが明らかになりました。また、癌病変も予防できるという報告も出てきました(Int J Cancer 2018; 142: 2186-2187)。以上のように、ワクチンはHPVの感染だけでなく、前がん病変・癌病変も予防できることが明らかになりつつあります。

現在、2価または4価のHPVワクチンは約140カ国で導入され、9価のワクチンは77カ国で

承認されています。約 100 カ国で公費負担され、男性への公費負担も約 30 カ国に及んでいます。FDA は 2018 年 10 月、ワクチン接種対象者を 27 歳から 45 歳までの男女に拡大することを承認しました。ワクチン接種の普及によりオーストラリアでは今後 10 年で子宮頸がんを撲滅できると予測しています (Lancet Public Health 2019; 4: e19-27)。一方、日本では毎年、子宮頸がんによって 3000 以上の命と 1 万人以上の子宮が失われ、特に若い女性の子宮頸がんが増加しています。2016 年に学術団体が構成される予防接種推進専門協議会が積極的勧奨の再開を求める要望書を厚労省提出しています。個人では子宮頸がんワクチン問題に関する執筆などが評価され、村中璃子氏は 2017 年にジョン・マドックス賞を受賞しています。更に、静岡県、岡山県、栃木県小山市などでは医師会などが中心となり、HPV ワクチン接種勧奨へ向け独自の取り組みを開始しています。以上のように、HPV ワクチンの安全性・有効性については科学的議論の余地はなく、積極的勧奨の再開が強く望まれます。また、再開後には予防効果の高い 9 価ワクチンを導入と男子へのワクチン接種が望まれます。

特定医療法人 ところはる 東栄病院 小児科
菊田英明

「小児科の話題」に戻る

<https://doctor.99soudan.net/index5.htm>